

O1-039

発達障害児の保護者に対するペアレント・トレーニングの効果—不安尺度を用いて

柳本 嘉時¹、石崎 優子¹、古川 恵美²、金子 一成¹

¹関西医科大学 小児科学講座、

²畿央大学 教育学部

【背景】

発達障害児の支援の一つとして、保護者に児の発達特性を理解し児を取り巻く環境を調整することを目的とした保護者に対するペアレント・トレーニングが推奨されているが、その効果を客観的に評価した報告は少ない。

【目的】

ペアレント・トレーニングにより保護者が持つ不安が改善されるか否かを明らかにする。

【対象と方法】

対象は2016年1月～2016年12月に、関西医科大学総合医療センター小児科および2か所の家族会の計3か所で施行されたペアレント・トレーニングに参加した、発達障害児(自閉症スペクトラム障害あるいは注意欠陥・多動性障害)の保護者24名。方法はペアレント・トレーニング開始前と終了後に自記式の不安評価尺度である新版STAI状態-特性不安検査(以後、STAIと略)ならびにMAS潜在性不安尺度(以後、MASと略)の記入を求めた。ペアレント・トレーニングは3か所とも全国ペアレント・トレーニング研究集会(2015年)が提起した基本プラットフォームを取り入れた同一内容を、同一インストラクターが隔週で全6回、実施した。内容は第1回「子どもの行動観察と行動の三つのタイプ分け」、第2回「子どもの行動の仕組み(ABC)の理解、ほめる基準を変える」、第3回「達成しやすい指示とスペシャルタイム」、第4回「三つに分けた行動の連続性、待ってからほめることの大切さ」、第5回「ほめるための準備(環境調整)と伝え方」、第6回「全体のまとめと修了式」とし、行動観察とほめることに重点をおき、ロールプレイ等の演習を取り入れて実施した。統計学的解析はペアレント・トレーニング前後のSTAIおよびMASの得点を対応のあるスチューデントのt検定を用いて比較した(JMP Ver. 12)。

【結果】

ペアレント・トレーニング前後での不安評価尺度の得点はSTAI 95→90($p=0.009$)、MAS 173→159($p=0.035$)と、ともに開始前と比較して終了後に有意な低下を認め、保護者の不安はペアレント・トレーニング終了後に軽減していた。

【結語】

発達障害児の保護者に対するペアレント・トレーニングは、保護者の不安を軽減させる。

O1-040

子どもとその家族への心理アセスメントの実践：総合病院小児科における取り組み

塩川 和実、渡邊 智奈美、金沢 晃、高屋 淳二

河内総合病院

【はじめに】

当院の小児科外来では、子どもの心身発達に保護者が不安を感じ、医師に相談するケースや、学校、保育所、幼稚園で発達の問題を指摘され、受診を勧められて来院するケースもある。しかし、保護者が明確な問題意識や治療動機を持っていることは稀で、検査や面接の結果、発達上の問題が疑われても、保護者は困っていないという例も多い。そのため、まずは発達の視点から子どもの問題をアセスメントし、問題意識を保護者と共有する作業が必要不可欠となる。その方法として、当院では発達の問題が疑われる子どもと家族に、知能検査、発達検査に加えて数回の家族面接や個別面接を実施した後、振り返り面接にて問題を共有するアセスメント面接を実施している。3症例を報告し、アセスメント面接の実際とその意義を検討する。

【症例】

1. 4歳男児：風邪で受診した際に見せた多動を医師が心配し、心理相談を勧められアセスメントを実施した。発達障害の診断を受け、投薬治療と並行して継続的な心理療法、母親面接を実施した。関係機関とも連携し、集団適応に改善が認められた。
2. 10歳男児：母親が発達の問題を心配して検査を希望し来院した。検査結果は発達障害を積極的に肯定するものではなかったが、衝動性の高さに対する母親の心配が強かったため、アセスメントを希望された。発達上の問題より、男児の性格の未熟さ、家族関係が問題で、アセスメント面接を通して問題を家族と共有することができた。
3. 14歳女児：不定愁訴、不登校傾向で受診し、心理相談につながる。対人コミュニケーションに困難が見られ、発達の問題が疑われた。アセスメント面接後、継続的な心理療法と家族面接を導入した。

【考察】

発達障害と一言で言っても、検査の結果のみで把握できる部分は限られている。さらに、問題意識が乏しい保護者に対して、丁寧なアセスメントや問題を共有する作業を抜きにして診断を告げることは、保護者をどうしていいかわからない状況に追いやるか、発達障害という枠組みでしか子どものことを見なくなるリスクをはらんでいる。保護者と問題を共有する作業は、保護者の子どもに対する関心や保護者の治療動機を高めることにもつながり、アセスメント面接は短期的な治療の介入の意義がある。